

一人一人の笑顔のために

特別支援教育啓発リーフレット

お子さんのこんな様子 ありませんか？



繰り返し、
ルールを破ってしまう



集中できず、
立ち歩いてしまう



文字の読み書きをすると、
極端に疲れてしまう



仲良くしたいのに、
友達とトラブルになってしまう

このリーフレットは、発達障害について知っていただき、家庭と学校が連携し、お子さんの成長と共に歩んでいくことを願い、作成しました。



保護者の育て方が原因ではなく、
お子さんの「やる気不足」や「努力不足」でもありません。



仲良くしたいのに、
友達とトラブルに
なってしまう

自閉スペクトラム症*

- ・自閉症
- ・広汎性発達障害
- ・アスペルガー症候群

集中できず、
立ち歩いてしまう

注意欠如・多動症*

注意欠陥多動性障害
(ADHD)

繰り返し、
ルールを
破ってしまう



文字の読み書きをすると、
極端に疲れてしまう

限局性学習症*

学習障害
(LD)



*は DSM-5 の診断名

参考) 発達障害者支援法

ご存知ですか？ 発達性ディスレクシア

学習障害のひとつのタイプとされ、全体的な発達には遅れはないのに文字の読み書きに限定した困難があり、そのことによって学業不振が現れたり、二次的な不適応などが生じたりします。知的能力の低さや勉強不足が原因ではなく、脳機能の発達に問題があるとされています。

参考) 国立成育医療研究センターHP

「単に学習が遅れている」「本人の努力不足」と誤解される状況から
「見えにくい障害」と言われています。



子どもたちが困っていること（例）

1

口頭による指示や複数の指示が分からない。

2

相手の表情や言葉の調子から感情を読み取ることが難しい。



3

順番を待つことが難しい。

4

活動に集中し続けることが難しい。



5

文章を読んで理解することに時間が掛かる。

環境の整え方（例）

1

目で見えるように、絵や文字で伝える。



2

相手の気持ちを具体的にその都度伝える。

3

時間や活動の見通しがもてるようにする。



4

短い時間で活動を区切る。
余分な刺激を減らす。

5

読み上げて伝える。音声教材を活用するなど、音声によって理解を助ける。

発達障害のある子どもの困難さは一人一人異なります。
楽しい学校生活を安心して送ることができるように、
一人一人に応じた必要な支援を考えることが大切です。





本人に合った学び方を見つける学びの場があります。



発達障害通級指導教室について

各教科の授業を通常の学級で行いながら、一部の授業について障害の状態等に応じた特別の指導を行います。

指導の形態として、**自校通級**、**巡回指導**、**他校通級**があります。

発達障害通級指導教室設置校については、名古屋市公式ウェブサイト「名古屋の特別支援教育」を参照してください。



名古屋の
特別支援教育

Q1 どのような子どもが対象ですか？

通常の学級に在籍し、おおむね学年相応の学習に参加できるが、LD、ADHD、自閉症、情緒障害等による学習上・生活上の困難を改善するための特別の指導を必要とする児童生徒が対象です。

Q2 どのようなことを学ぶのですか？

例えば、

- 集団に参加するための手順やきまり
- 相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさ

などです。具体的な内容は、一人一人の教育的ニーズに応じて検討します。

Q3 利用したいときはどうすればよいのですか？

まずは、在籍している学校に相談し、通級指導教室の利用を決めることになります。

相談機関について

お子さんの様子で気になることや心配なことがあるときは、学校や下記の相談機関にご相談ください。



名古屋市教育センター
子ども教育相談 ハートフレンドなごや

熱田区神宮3-6-14 ☎052-683-8222

名古屋中央療育センター

昭和区折戸町4-16 ☎052-757-6126

名古屋市発達障害者支援センター(リンクす名古屋)

昭和区折戸町4-16 ☎052-757-6140